

児童養護施設卒園生みらい奨学金制度合同会議 報告書

日時：2023年11月8日(水) 19時～21時

場所：伊勢崎プリオパレス

参加者：伊勢崎 RC (23名)、群馬境 RC (1名)、伊勢崎中央 RC (5名)

伊勢崎南 RC (2名)、伊勢崎東 RC (2名)、伊勢崎 RAC (2名)

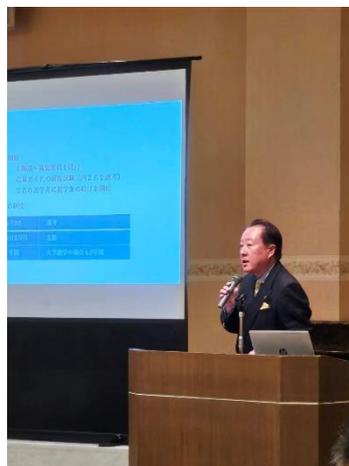
高崎シンフォニーロータリークラブ(3名)

当クラブ及びローターアクトクラブの他に、伊勢崎5クラブの会長、役員の方々、高崎シンフォニーロータリークラブの3名もお招きし、総勢38名により児童養護施設卒園生みらい奨学金制度合同会議を開催いたしました。

原会長の開会挨拶後、趣旨説明を関直前会長（特別委員長）からお伝えいたしました。

その後、「児童養護施設卒園生スーツ寄贈事業の歴史について」というテーマで、峯岸パスト会長がお話されました。今回で10年目の節目を迎えるスーツ寄贈事業を振り返ると共に、児童養護施設の現状を他クラブの方々へお伝えする機会となりました。

そして、「みらい奨学金制度の現況と今後の活動について」というテーマで、森田パストガバナーが資料をもとに説明されました。昨年12月に県内8施設に募集をし、今年の4月から2名の進学者（卒園者）に奨学金給付が開始され、その制度内容を伝えた上で今後の5年間における実行予算について話され、将来的には各ロータリークラブ、2840地区、地域社会にも支援の輪を広げていきたいと述べられました。



ここで、群馬境ロータリークラブの沼田会長から乾杯の発声をしていただき、引き続き各テーブルに分かれ、適度にお酒を交えながらのグループディスカッションとなりました。

6つのテーブルに分かれ、①伊勢崎ロータリークラブで実施している奨学金活動への参画方法について ②事業の普及活動と支援者拡大の活動について ③事業原資（奨学金基金）の持続可能な募金活動について というテーマでディスカッションいたしました。

各テーブルも時間が足りないほど、様々なご意見が出ているようであり、あっという間に各グループ代表からの発表となりました。



伊勢崎東ロータリークラブ栗原会長の発表では、「趣旨や経緯も理解できた。児童養護施設の施設長をクラブに招いてお話が聞きたい。スーツ寄贈式に参加したい」など温かいお話を聞きました。高崎シンフォニーロータリークラブ小野垣会長の発表では、「何事も事業を立ち上げるのは大変であるが、どうやって継続していくかが重要である」、群馬境ロータリークラブ沼田会長からは、「この事業の話を本日3回目にして、段々理解が深まってきたが、支援の輪を広げるには段階が必要で、内容の伝え方を知ることが必要である。クラブ単位より一人一人の理解を増やしていき、第2分区Bから地区へ広げたい」、伊勢崎中央ロータリークラブ大竹会長からは、「まずは第2分区Bの仲間に対して、内容の中身を伝えて欲しい。まだ、伊勢崎ロータリークラブと他のクラブでの温度差を感じていたが今日の話聞いて、勘違いがクリアとなり次のステップへ向かう為、目標とストーリーを上手に伝えていきたい。そしてIMや合同会議で同意を募りたい」、伊勢崎南ロータリークラブ田原会長からは、「施設長を招いて全会員へ施設の現状を伝えて欲しい。会長・幹事会などで、寄付金額の定額を決めて欲しい。たとえ、寄付額が少なくても継続することが大事である」、伊勢崎ローターアクト内山会長からは、「まずは施設の現状を知り、アクト内でも意見を出し合い、少額募金やお金以外のチャリティグッズやイベントなどで協力したい。そして、他県への繋がりも生かしたい」とそれぞれ、前向きなご意見をいただきました。

その後、原会長から今後の進め方の共有についてお話され、小野垣会長からの講評をいただきました。最後に、「手と手つないで」を全員で丸くなり歌い、藤田次年度ガバナー補佐の閉会挨拶で、締めくくりました。

(報告者：加藤 学)